

Daito toDay

エクササイズ!



No. 7



発行日 2019年3月11日 〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1
 発行 大東文化大学 学長室 po@ic.daito.ac.jp
 編集 河内利治 http://www.daito.ac.jp/president_blog/

叡智の肩に乗る

大東文化大学の事業「漢学・書道の学際的研究拠点の形成による『東洋人の"道"』研究教育の推進」は、Daito toDay No.4 (2018年7月)で紹介したように、本学の特色ある研究を基軸として大東文化大学ならではの全学的独自色を打ち出す取組みです。本学のこの取り組みは文部科学省の平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」に選定されました。

大東文化大学の「平成30年度私立大学研究ブランディング事業」は門脇学長の依頼の下、河内副学長が中心となって「建学の精神」から漢学と書道を基幹に据えて立案しました。漢籍や書跡など本学所蔵の知的資源(リソース)を総点検して公開することを中心として研究していきますので、人文科学を基盤として柱を立てることにより、社会科学や自然科学の学問領域と連関させることができます。この「研究ブランディング事業」により、100周年さらに110周年に向けて、「多文化共生:アジアから世界へ」の展開を真に推し進めていくことができます。

東洋人の"道"の探求は9学部を擁する現在の大東文化大学において、どのような意味を持つのでしょうか。『東洋人の"道"』研究は単純に儒教に基づく道義の回帰を求めるものではありません。閉塞を予感させる時代に抗し、先駆けて自ら考え国際社会で活動するマインドを共有する大学基盤の創造を企てるという積極的な意味を持っています。



「私がより遠くを見渡せたのだとしたら、それは巨人の肩に乗っていたからです」(If I have seen further it is by standing on ye shoulders of Giants.)。これはニュートンがプリンピキアで謝辞を述べた一人であるR.フックに宛てた1675年2月の手紙に書かれている言葉です。人類史に輝く実証的な近代科学の礎となる体系を打ち立てたニュートンは、先人たちが1つずつ積み上げてきた成果の高さを巨人の肩になぞらえました。その高さがあったからこそ、そこに立って遙かな先を見渡すことができたというのです。先達の発見を手がかりに真理を開拓するという考え方は古代文化の偉大さを認めてさらに発展させようとした西洋ルネッサンスの精神に遡ります。

この考えは『東洋人の"道"』研究に奥行きと示唆を与えます。学術の発展は輝く高峰の連なりだけでなく、歴史を経て穏やかに重なり合う広がりの中で形成されます。現代社会の課題に取り組む大東文化大学においては、東洋の叡智に深く静かに耳を傾けさまざまな文化を理解・尊重するだけでなく、私たち個人においても自身を大切にするようにして他者を認めて世界との関係を再発見できる大学を目指します。

東洋人の道を育てる
 花道・茶道、あるいは柔道・剣道といった
 伝統文化に共通する「道」は、
 東洋における人間性の
 根幹となる尊い思想です。
 書道もまた然り。
 書道とは書を通じて
 「人として踏み行う道」であり、
 いかなる時代にも揺らぐことのない、
 普遍かつ不可欠な教養の一つです。

「道」が書かれたポスターの言葉

大東文化大学が向かう道程

今日の大学が置かれている状況は20年前の状況とは大きく異なり、大量のデータや知識の活用自体が社会的課題の1つとなっています。激しい変化の中で予測不可能な時代にあっては、社会の成熟は大学が従来果たしてきた役割の転換を迫っています。文教政策は「個々の教員が教えた内容ではなく、学修者自らが学んで身に付けたことを社会に対し説明し納得が得られる体系的な内容となるよう構成する」ことを強く求めています。

インターネットがそうであるように学校以外の知識へのチャンネル機会の増加は少子化に突入していく今日、忍び寄る大学の解体・淘汰は私たちの課題です。大東文化大学が学術・スポーツの世界で先端に留まり、今後とも広くから集うことができる学びの場所であり続けるために、常に遠く先を見渡した実効性のある改革が不可欠です。

大東文化大学の一体的な教育研究改革の推進

基本的な考え方

21世紀に入って急激に顕在化したきた**ポスト情報社会**を迎え、自己完結的な内部の改革努力では社会から**付託された多様な役割**を果たすことは困難になっている。2040年までに到来する社会構造の変化に備え、**大学が先行する早急な改革**は不可避である。

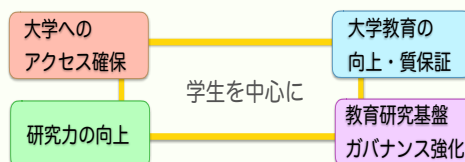
少子高齢化とグローバル化の双方が加速する社会では、**人材育成とイノベーションの創出**の一体的追求は大学に残された最後の砦。

大学は自らの**強みと特色**を再確認し、学修を志す者に広く**門戸を開いて地域や世界のニーズ**に応える。

大学は提供する**教育の品質を保証**する装置を整え開示し、**学修者がその成果を確認**できる仕組みを整える。

大学は世界を牽引する**優れた研究人材**を求め、研究環境を改善し、**研究成果を社会に公表して学びの意欲を発掘**する。

大学は教育と研究を一体化した実効性ある**教育研究基盤**を整えるために**ガバナンス改革・経営改善**を進め、社会の各層と連携する。



長官賞の受賞～もしもあなたがスポーツ庁長官だったら

スポーツ庁主催の国民のスポーツ実施率を向上させるための事業プランの募集（第2回パブコン）『もしもあなたがスポーツ庁長官だったら～』に本学が応募した『空き家大学—ヘルスフィットネス講座』が平成31年2月9日の最終プレゼンでスポーツ長官賞を受賞しました。応募したスポーツ科学科3年の宮川歩夢くん、本学職員の横山亜衣さん・西森亮太さん・川瀬龍彦さんと健康科学科の鈴木明先生・高橋進先生のチーム提案は、地域の空き家を利用して出向いた学生と高齢者とが一緒に運動を行うという楽しいだけでなく直ぐに実施可能な計画で、高齢者の健康増進だけでなくコミュニケーションの場を提供するという深い示唆に富んだ内容です。

大東文化大学では教職協働の1つの姿として、学生と教職員の三者が互いに伴走者となった研究活動を推進していきます。その成果は日々の教育に活かすだけでなく社会にも還元していきます。



空き家大学—ヘルスフィットネス講座とは—

1. 対象：高齢者（特に暇たきりの高齢者）
ほとんど外出しない高齢者
2. 目的：運動促進
運動が億劫
3. ポイント：空き家を使用して、
高齢者と学生で運動を行う。



上段左から：寺川綾審査員（ロンドン五輪競泳メダリスト）、泉正文審査員（日本スポーツ協会副会長）、高橋進（健康科学科教授）、鈴木明（同）、鈴木大地審査員（スポーツ庁長官）
下段左から：西森亮太（事務職員）、横山亜衣（同）、川瀬龍彦（同）、宮川歩夢（スポーツ科学科3年）

TJUP ～大学がスクラムを組んで地域を支える

TJUP 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（Saitama ToJo and west area Universities Platform）とは埼玉県の東武東上線沿線および西武線沿線の大学、自治体（下図の白抜きの特定地域と黄色の準特定地域）、企業が連携して地域振興を図るプラットフォームで、文部科学省平成30年度私立大学改革総合支援事業のプラットフォーム型（タイプ5）として選定されています。



大東文化大学は TJUP の4つの幹事校の1つになっており、TJUP の参加校には埼玉医科大学、埼玉医科大学短期大学、城西大学、城西短期大学、女子栄養大学、駿河台大学、西武文理大学、東京家政大学、東京電機大学、東邦音楽大学、日本医療科学大学、日本工業大学、武蔵丘短期大学、明海大学、山村学園短期大学、立正大学（以上17の大学・短期大学）とオブザーバーの埼玉県立大学があります。

TJUP では生活しやすい地域づくりを推進するワーキンググループ「生活支援検討WG」を立ち上げ、地域密着型の社会貢献活動を行っています。その1つとして消防本部、自治体と大学とが連携して活動できる機能別消防団を発団しています。機能別消防団は市町村で定めた特定の活動・役割に従事する制度で、本学は比企広域消防本部と連携します。参加した学生は地域防災における技術と知識を習得することができます。

TJUP を支える学生たちの等身大の活動が各地域に届き、相互連携であることによって地域の境界が消え去って広く社会につながります。学生たちが開いた社会への扉を通じて大東文化大学の強みと特色を活かして世界に及ぶ課題に向き合うことができます。

新年度からのさらなる発展へ

4月からの新学期を迎えてすぐの5月より新しい元号が制定されます。大東文化大学は、1923年（大正12年）にその前身である大東文化学院として開校され、以来、昭和・平成と時代を重ねながら2023年には100周年という大きな節目を迎えます。

今年に新たな元号が制定され、来年2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催という社会の動きに加え、本学では2021年1月のセンター試験に代わる新テスト「大学入学共通テスト」の実施、さらに1992年から下降をたどっている18歳人口が2018年の117万人から2040年には88万人へと現在の75%程度に減少するという確実な未来を新たな元号の下で迎えることとなります。

私立大学はそれぞれ固有の課題を抱えながら大学改革に取り組んでいます。大東文化大学にあっては、問題解決のための教職員同士の協力によるフットワークの軽さと時代に先んじる速度感をもって、大きな展望のもと先人が築いた資源を豊かに育てながら一層魅力ある大学としましょう。